

船上火災と消防艇を描いた外国切手

平岩道夫

(切手評論家)



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

文明や交通機関が発達し、社会が複雑になってくると、火災もこれまでのような建築物ばかりでなく、航空機や船舶、鉄道、車輛など、広い範囲で起きるケースが少なくない。そこで今回は、特殊な火災や消防に関係のある切手のなかから、5枚を紹介してみよう。

まず(写真1)の切手は、1988年にカリブ海にあるトリニダード・トバゴから発行された“船上火災”を描いた珍しい切手の例。世界的に有名なロンドンの保険会社、ロイド社の創立300年を記念して発行された4種の切手のうちの1枚で、トリニダード・トバゴの沖で炎上する“アトランティック・エンプレス”号を描いている。

続いて(写真2から5)は、いずれもポーランドからお目見えした“消防艇シリーズ”切手6種のうちの4種で、同国で実際に活躍している消防艇を描いたもの。ところで消防艇といえば、オランダはマドローダムにある“ミニチュアタウン”で、面白い光景を見ること

ができる。

ここは有名な建物や通りを、すべて実際の1/25の大きさに縮小してしまった“おとぎの国”で、オランダ国内はもとより、世界中から観光客がやって来ては見物する。この町の一角には、ジャンボジェット機(これも、もちろんミニチュア)が並ぶ空港もあるし、オランダの独特のレンガ屋根の街並みも続いている。訪れた人々は、巨大な建物を眼下に、まるでガリバーが小人の国に迷い込んだような気持ちになる。

水をたたえた運河には、大型タンカーがいかりをおろしている。と、突然、そのタンカーで火災が起こり、赤い炎が立ちのぼる。すかさず消防艇から散水が始まり、無事火災は鎮火する——といった調子。

これぞ火災の恐ろしさと消防の大切さを、実際の模型で教える、大切な“教材”のひとつといえよう。